

令和元年度 学校評価実施報告書

松原中学校

教育目標

学校教育目標…**自律・友愛・創造**

「自らを律し、なかまを大切に、創造性豊かな人」

自ら学ぶ力、(学ぶことの楽しさや発見、自己を変革し続けることができる力) 律する力を(ひととのかかわりを成長の糧とし、自己や他者にとってより良い選択・判断ができることができる力) 鍛え、責任ある行動をとり、学び合い、高め合う「なかまづくり」ができ、自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 自ら学びに向かう生徒、また学び合いを通してインタラクティブな相互作用を通した学習活動を行い、ともに高め合える生徒を目指して、授業改善を重ねてきた。昨年度に続き道徳の研究指定を受けることを通して、教科学習でも教師の明確な指導の意図のもと、「自ら問い合わせ」をもち、何事にもチャレンジする生徒を目指し研修と実践を重ねてきた。教育活動全般を通じて道徳性を養い、仲間を大切にする心を育ててきたが、自らを律する面(自律)については家庭学習や基本的な生活習慣の確立などにおいてやや課題があり、今後も道徳教育やキャリア教育に力を入れつつ保護者と連携して効果的な指導を図る。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校全体として落ち着いた中で生徒は過ごせているように思う。学び合いに取り組み、学力も向上してきているこの状態を大切にしてほしい。昨年度に続き文科省の研究指定を受け、特別の教科・道徳の研究について、授業を保護者や地域にも公開していることは良いことであり、指定がなくなっていても続けていくことが望まれる。ただ、生徒はもっと積極性やチャレンジ精神をもつて取り組めば更なる向上が望めるため、教職員とともに課題を共有して、必要な部分は大いに支援していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年 10 月 18 日	生徒、保護者、学校運営協議会
最終評価	令和 2 年 3 月 23 日	生徒、教職員、学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図るとともに、主体的に考え、協同して課題に取組み、共に学び合い高め合うことができる子どもを育成する。

具体的な取組

- 学力(言語活用能力・コミュニケーション能力)の定着のためのTTでの話し合い活動を多く取り入れたきめ細かな授業の実施(全学年国語、2年英語、3年数学)等により学びの質を高める。
- 毎日の家庭学習の習慣化をするための取り組み(毎日の家庭学習課題や金曜日の週末課題の実施)を進め、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図る。
- 教科指導(授業)が何よりの生徒指導と捉え、授業規律の見直しや授業改善や教材研究を行う。センターとなる外部講師等を招聘し、教職員が学び合い切磋琢磨することによって、話し合い活動を取り入れた授業展開を積極的に進め、学びの質を高めていく。
- 学習に遅れがちな生徒には、定期テスト前や長期休業中に『補充学習』・『土曜学習』等を実施し、基礎的・基本的な内容の確実な習得をめざす。
- 朝の読書タイムを通して読書習慣をつけるとともに、教科指導においても積極的に学校図書館を活用する。
- 授業改善を進めるため、教員の指導力向上のために定期的に研修会を行い、互いに研鑽する機会をもつ。今年度全面実施となる道徳の指導と評価に関する研修についても充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・習得した知識・技能を活用できる問題の達成度。
- ・家庭学習課題や週末課題における達成の点検結果。
- ・定期テストや単元のパフォーマンス課題における達成度。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果分析。

- 該当項目…①「どの授業も、自分なりに真剣に取り組めている」(生)
②「授業などに、グループ学習などのような生徒主体の学習活動が展開されている」(生)
③「学校の学習において、基礎的な力が身についていると感じる」(保)
④「○○科の授業は、よくがんばっている(○○はすべての教科で問う)」(生)
⑤「家庭学習課題や週末課題は、家庭でしっかり取り組めるようにしている」(保)
- ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

- ・特に2年生の学習確認プログラムにおいて、ベーシックからの伸びが見られる。ねらいを達成するためにICTを効果的に活用している割合が多く、どの学年においても情報を読み取る力が伸びている。上記該当項目の①から④については、生徒や保護者のアンケートから概ね達成へ向いていると思われるが、⑤については、やや課題がある。家庭学習習慣の確立のために宿題や週末課題等を出しているが、自律的な学習習慣が充分確立しているとは言い難い面がある。

自己評価

分析(成果と課題)

生徒アンケートの中で、「授業でグループ学習など生徒主体の学習活動が展開できている」と答えた生徒が各学年で9割以上あり、本校で進めている「めあてに迫る学び合い」が一定の成果を上げていると思われる。ただし、全国学力・学習状況調査質問紙において、家で計画を立てて勉強していますかという問に対し、肯定的な回答は約4割弱に留まっており、自律的な学習が充分確立しておらず、週末課題をはじめとする学校の課題や習い事で何とか一定の効果を維持していると言わざるを得ない。学校での授業へのアンケートでは、すべての教科にわたって「よくが

	<p>んばっている」という回答が8割以上を占めており、しっかり学習に向かおうとしている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>前述の通り授業によく頑張って取組んでいる傾向は一定評価できるが、さらに<u>授業の「質の向上」</u>を目指していかなければならない。また、家庭学習への意欲につながる「問い合わせ」や「振り返り」のあり方の工夫を図っていかなければならない。これから実施される研究授業や公開授業において、相互に研鑽し授業力の向上を目指して<u>授業改善</u>を図っていきたい。また、全国学力・学習状況調査において、調査教科すべてにおいて「将来役に立つ」と8割以上の生徒が回答しており、教室での学習が日常生活の場面で生きると考えていることから、今後も習得にとどまることなく、活用や探究につながる意欲のもてる授業展開に努める必要がある。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの分析において、低い通過率の分析や弱点に対する授業での補充学習により、低位の生徒を減少させられているか点検する。 ・学習確認プログラムや定期テスト、単元テスト等を通して「わかる」授業、達成感のある授業が実践できているかを点検し、以降の研修のあり方や<u>授業改善</u>につなげる。 ・<u>家庭学習課題</u>や週末課題を点検するとともに、家庭学習の定着率向上を目指す。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>生徒アンケートの中で、「授業などにグループ学習などの生徒主体の学習活動が展開されているか」の問において、どの学年も9割を超える生徒が肯定的な回答をしており、生徒が主体的に学びに向かおうとしていることは良い傾向である。今年は英検の受験者も増えており、運営協議会としても支援していく。</p>
最終評価	
	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>生徒アンケートで、授業でグループ学習など生徒主体の学習活動が展開できていると答えた生徒が各学年で8割以上あり、本校で進めている「学び合い」が一定の成果を上げていると思われる。ただし、家で計画を立てて勉強しているかというとやや課題がある。自律的な学習習慣の確立を目指して、週末課題をはじめとする学校の課題や習い事で一定の成果を維持していると考えられる。自律とは本来、自分で決めたことを自分でやりとげるものであり、今後は週末課題や日々の学習課題を出さなくとも主体的に学習に向かうよう働きかけていきたい。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムにおいて、いずれの学年も伸びてきている。校内研修等における授業改善の成果が反映していると思われる。 ・どの学年も家庭学習課題にも力を入れてきた結果、じわじわと伸びてくることができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>週末課題や毎日の家庭学習課題を出し、家庭学習の習慣化を図っている効果は表れてきている。大半の生徒は課題に取り組むことで着実に成果を伸ばしている。ただし一斉の課題には限界があり、ドリル等は真に個別最適化された Edtech の導入が望まれる。個に応じた課題をいかに出してあげられるかを考え、すべての生徒が主体的に学びに向かう力をもっとつけていかなければならないと感じる。</p>

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	生徒アンケートより、すべての教科にわたって全学年のほとんどの生徒が「がんばっている」と答えており、学校全体として落ち着いて授業に取組めている成果が出ているものと考えられる。また、ねらいを明確にしたグループ学習などのように、生徒主体の学習活動が展開されないと感じている生徒も多く、生徒が主体的に学べるように指導していただいている様子がうかがえる。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- (1) 温かな学級づくりをし、よりよい集団とするために学級経営力を向上させ、自他を大切にする態度や心を育てていく。
- (2) 生徒会活動や特別活動の充実を通して、生徒の協調性・思いやりの心やボランティア精神の向上を図る。
- (3) 生徒の「いいとこ探し（ハッピーマッピー）」を全学年で行い、自己肯定感や自己有用感の向上に努める。
- (4) P T Aや、学校運営協議会と学校が協力して、地域とともに豊かな心を育む行事や活動を行い、郷土を愛する心や公共の精神を養う。

具体的な取組

- 校庭内の花壇、畑地に季節の草花を積極的に育て、自然に親しみ、命を尊ぶ気持ちや、生き物を大切にする心を醸成する（生活環境委員会やボランティア生徒による植栽と管理）。
- 生徒会活動や委員会活動を通して、自治能力を高めるとともに、しっかりとした規範意識をもった生徒の育成を図る。
- 登校時の「あいさつ」運動や、互いの人間関係を上手く保つための「ありがとう」等の言葉を互いにかけられるよう、道徳・学活等で日常的に指導する（感謝と謙虚の心を持った生徒を育成する）。
- 文部科学省委託「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究指定を受け、年4回の道徳の公開授業を行うとともに、自主・自律の精神を養う。
- 伝統文化をはじめ、地域の諸行事に積極的に参画し、大人との触れ合いを通して地域に貢献し、郷土愛や公共の精神を持った生徒を育成する。
- 全学年で「ハッピー・マッピー（いいとこ探し）」を行い、毎週生徒にフィードバックして自己肯定感や自己有用感の向上を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒及び保護者アンケートの結果分析。
 - ① 学校に行くのが楽しい（生）
 - ② 私は学校にあるルールを守っている（生）
 - ③ 学校は、あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーを身に付けさせている（保）
 - ④ 学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い。（保）
- ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。
- ・文部科学省委託「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究指定における数値の変化。

中間評価

各種指標結果

全国学力・学習調査において、8割以上の生徒が「学校で友達に会うのが楽しい」と回答しており、生徒アンケートからも概ね学校へ行くのが楽しいと回答し、温かな学年学級経営が進めて来られていると考える。また、人が困っているとき積極的に助けるかという質問には、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしている。ただ、地域行事への参加は5割強とそれほど高くはなかった。

自己評価	分析（成果と課題）
	「学級みんなで話し合って決めたこと等に協力して取組み、嬉しかったことはありますか」という問に対し、9割弱の生徒が肯定的な回答をしており、生徒相互のインタラクティブな活動を通して、他者を思いやる心や達成感等が醸成されているものと考える。ただ、自分には良いところがあるという <u>自尊感情</u> の質問には、昨年度よりは向上したがやや自信のなさがうかがえる。
	分析を踏まえた取組の改善
	年度当初から始めている「いいとこ探し」や「名言の掲示」は、毎週掲示し続けられておりそういう地道な活動や日々の挨拶運動等は、相互理解や豊かな心を育む根幹として継続していきたい。地域の人的・物的資源を活かした伝統文化学習や地域の諸行事が多く、人との繋がりや感謝を実感できる場面は多いものの、多くは地域や教師が設定したもので、可能ならば自主的な創造につながるようなアプローチにすることも必要かと考える。また、地域を理解し、地域を愛する生徒を育成するためにも、生徒会を中心としたボランティア参加を促進していきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問に対し、全員がその通りだと回答しており、昨年度から研究指定を受けて力を入れて取組んでいる道徳の指導が一定効果をあげている。この状態を維持できるよう道徳の時間を基盤に取組みを進めていきたい。 ・将来の夢や目標を持っていますかの問に対してはやや弱さがうかがえ、キャリア教育の視点を日常の学習や活動にもっと取り入れる必要性がある。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	何よりも学校に行くこと、友達に会うことが楽しいと感じている生徒がアンケートで大変多いことは好ましいことである。しかし少数とはいえ、否定的な回答も軽視せず、教育相談や平素の諸活動等を通して安心感や承認感のある学級経営に引き続き取組むことが大切である。自尊感情については、地域の諸行事や伝統文化体験を通して、成功体験や達成感を積み重ね向上できるよう、学校運営協議会も支援していく。朝読書を継続し、読書意欲を高める工夫を行ってはいることは良いことだ。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部が中心となり実施した、毎週の「いいとこ探し」は、<u>自己肯定感</u>や<u>自己有用感</u>の涵養につながった。 ・クラマネやいじめアンケートの分析や教育相談を通して、承認感のある温かな学級集団が育っていると思われる。生徒アンケートでは「相互理解・寛容」の項目で各学年で数値が伸びた。 ・「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究指定による生徒アンケートから、<u>公共の精神</u>やボランティア精神が向上しているかどうか検証した。「地域の伝統や文化を大切にし、よりよい町にしたいと思う」という項目で各学年で数値が伸びている。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	生徒アンケートで「学校に行くのが楽しい」との回答がほとんどを占めており、多くの生徒が楽しく学校に登校できているといえる。

価 値	<p>秋から冬にかけて、地域のふれあい祭りや小学校区毎の餅つき会など、ボランティア活動で昨年以上の生徒が参加し、地域で活躍し地域の方から称えていただき、<u>自尊感情や公共の精神</u>を育むことができた。また年間2回生徒会美化委員会にボランティアの生徒が加わり、校内の花壇を整備したり、季節の花を育て、自然に親しみ、命を尊ぶ気持ちや、生き物を大切にする心を醸成することができた。環境づくりにはさらに力を入れ、年間を通じて花の絶えない学校づくりになっている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>昨年度に引き続き道徳（文科省）の研究指定を受け、年3回の道徳の公開授業を行うとともに、1月に研究発表（研究授業を伴う）を行った。道徳教育に力を注いだことを通して、普段の生活の心の安定につながっているものと感じる。ただ、保護者や地域のかたにも参観していただけるよう今年度も案内を行ってきたが、教科の参観は比較的たくさん来ていただいたも、道徳の参観や発表となると少ないのが課題である。次年度も「しなやか道徳」の研究指定を受けることが決まっているので、多くのかたに参観や発表に来ていただけるよう、保護者参加型の公開授業も取り入れつつ、魅力ある道徳の授業づくりにする必要がある。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域の行事におけるボランティア活動等に、昨年度以上に多くの生徒が参加してくれたことは<u>公共の精神</u>を育む上で大切なことである。また、中学校が基盤として取り組んできている伝統文化学習は、地域を理解する上で大切なことであり、次年度も伝統文化学習には学校運営協議会とともに積極的に支援していきたい。道徳の研究指定を2年間連続して受け、心の教育につなげられてきたことにより、心ゆたかな生徒が育っていると感じる。</p>

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> （1）保健衛生面に关心を持ち、積極的に健康維持に努めようとする態度を養う。 （2）基本的生活習慣の確立に向け、食や生活習慣について家庭への啓発を図る。 （3）薬物防止については、対岸の火事ととらえず危機感をもって指導していく。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○性教育・安全教育・健康教育に関する学習（禁煙、飲酒、薬害、エイズなど）を系統的に取り組み、学活を活用して実施していく。特に薬物防止教育には力を入れる。 ○地域や学校運営協議会との連携により、地域や保護者の要望等を取りいれ、薬物乱用防止の保護者・地域の学習会を計画する。 ○基本的生活習慣を整え、活力や意欲のある生活を送るために、食教育を充実させる。また、体育健康教室の協力を仰ぎ、食育に関する保護者啓発の講話をを行う。 ○基本的生活習慣等の健康調査をおこない、課題や改善点を共通認識し、日常の教育活動に生かせるよう研修会を行っていく。 ○学校保健委員会、保護者会、学校運営協議会を通して、健康教育への協力と理解をしていただくための活動をおこない、地域とともに子育てを行う。 ○スマホ依存を防ぐため、学級での生活習慣指導とともに、生徒には外部講師による講話の機会を持つとともに、地域の大人もSNSの光と影に関する学習会を実施していく。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査を行い、朝食の接種率や就寝時間の調査を通して、基本的生活習慣の確立の状況を分析し、

スマホ、テレビ、ゲーム等の時間の比率の推移を点検する。特にスマホへの依存度合いを減少させる。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査からの分析も併せて、基本的生活習慣の確立について検証する。

- ・防煙・薬物防止、飲酒防止教室等を各学年で実施し、健全で安全な生活が送れるよう指導し、今年度も喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す。

中間評価

各種指標結果

アンケートから、学校には心や体の健康について相談できる場があるか聞いたところ、学年が上がるにつれて「そう思う」と回答した生徒が多く、3年生では9割となった。心や体の健康に関する意識が向上していっているものと思われる。喫煙や飲酒等に関する補導は現在のところない。ただ、今回質問紙調査にはなかったが、テレビやスマートフォンにかかる時間がやや長い傾向にあり、就寝時間（睡眠時間の不足）に影響を与えていたという課題がある。

自己評価	分析（成果と課題）
	防煙教室や携帯教室を行ってきたことや、学級指導で喫煙防止やスマートフォンのモラル（依存防止を含め）指導を適宜行ってきたが、特にスマートフォンに関しては使用時間がやや長い傾向にあり、習い事や家庭学習課題をこなす時間を考慮すると、就寝時間の不規則と関連していると思われる。
	分析を踏まえた取組の改善
	校区内2小学校の児童の家庭生活（う歯等の治癒率、睡眠、スマートフォン等）との関連について、小中で連携して取組める保護者啓発やSCによる心の健康に関する講演等を検討したい。就寝時間の適正な確保と合わせて基本的生活習慣の確立を目指した取組を継続的に実施する必要がある。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	学校での保健・生活指導等のみで改善しないことは明らかであり、学校からの保健だよりや保護者会、新入生説明会、家庭教育学級等、あらゆる機会に家庭の協力を依頼し、基本的生活習慣の確立を目指す。また地域諸団体とも連携して、喫煙、飲酒、薬物ゼロを引き続き目指す。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	地生連では、喫煙の課題である「SNSを取り巻く諸問題」、「薬物防止（特に大麻）」をテーマとした保護者、地域の方による学習会を今年度立ち上げた。特に薬物に関しては対岸の火事と思ってはいけない。関係機関とも連携し、生徒の健全育成のため支援していきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・学校保健委員会等の実施により、校医の先生より生活習慣の改善について助言いただいた。今年度は食生活についての助言をいただいた。
- ・基本的生活習慣や食教育重視の観点から、保健だよりや健食ニュース等を通して規則正しい生活習慣や食生活ができる生徒を増やせるように保護者啓発を行ってきたが、インターネット（スマートフォン）やゲームの時間を減らすには至っていない。
- ・インフルエンザ予防を早くから呼びかけたが、罹患する生徒が1、2年生で多く出たため、学年閉鎖及び学級閉鎖を行った。換気や手洗い等を極力したが、伝染の勢いが早かった。

- ・2月から新型コロナウイルスに対する警戒を、委員会の通知文に従って行った。特に外出の際の手洗いやマスク着用については注意喚起をするとともに、不要不急の外出を控えるよう指導した。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<p>秋から冬にかけて、地域のふれあい祭りや小学校区毎の餅つき会など、ボランティア活動で多くの生徒が参加したり、地域の学区運動会で活躍し地域の方から称えていただくことができた。</p> <p>ただし、2月より伝染が拡大した新型コロナウイルスについては、未知の経験であり感染しないよう、政府、委員会の方針に沿って3月5日より休校の措置を取ってきたが、3月中に終息に向かうとは考えにくく、先の見通しが不透明である。</p>
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<p>新型コロナウイルスへの対応については政府、文科省、市教委の通知を踏まえ、生徒の健康と安全を第一に、適切に対応していきたい。早期に終息に向かうとは想定できず、日常の手洗いの徹底やうがいの励行等に心がけていきたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 学校独自の取組

重点目標
<p>義務教育9年間の教育目標を「育ちと学びの連続性の確立」と捉え</p> <p>○地域の子どもたちの様子を保・幼・小・中・地域で交流し、課題を探り共有を図る。</p> <p>○保・幼・小・中・地域で、を目指す子ども像の具現化に向けて実践する。</p> <p>○昨年度に続き「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を通して、考え方議論する道徳科の確立と評価についての研究を進める。</p>
具体的な取組
<p>○夏季休業中に3校合同での全教員参加研修を実施し、分科会でテーマごとに研鑽を深め、児童生徒の課題や育てたい力について共通認識を図るとともに、小中連携の一層の充実を目指す。</p> <p>○「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を進めるため研究体制を整え、5月より研究授業を実施していくとともに、年3回の公開授業は保護者・地域にも公開する。また、小学校高学年と中学校1年生の合同道徳授業を実施する。研究成果は令和2年1月の発表会でエビデンスとともに発表する。</p> <p>○毎月の3校校長会、教頭・教務・研究主任を加えた総務部会、生徒指導主事・主任会、保護者参加型オープンスクールの開催、保幼小中館連携会議（館は児童館）の活性化等の取組を展開することで小中連携の充実を図る。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標
<p>ジョイントプログラム、学習確認プログラムの分析による小学校から中学校への接続状況とその後の変化に落ち込みは見られないか、不登校の状況はどう変化したか等、学力向上委員会や生徒指導委員会で検証する。ジョイントから確認ベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれの向上をめざしたい。また、文部科学省委託「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究指定における数値の変化も検証材料としたい。</p>

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<p>生徒指導委員会で不登校ぎみの生徒や支援を要する生徒の連携はできているが、学力向上委員会において、ジョイントプログラム、学習確認プログラムの接続に関する会議では改善の余地がある。保幼小中館連携会議（館は児童館）は実施し、地域の子どもたちの状況についての意見交換はできている。</p>
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">毎月の3校校長会は実施できている。教務主任同士の連携も総務部会で進めており、児童が中学校へ来てのオープンスクールの開催を10月下旬に実施する。また、今後も保幼小中館連携会議（館は児童館）の活性化等の取組を展開することで小中や地域との連携の充実を図る。夏季休業中に小中合同で、学力向上や総合育成支援にテーマを絞った研修会を実施できた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">ジョイントから確認プログラム・プレへと確実に向上しており、今後も授業改善を重ねることを通して更なる向上を目指したい。今年度の合同研修会のテーマは学力向上に重きを置いたが、小中学校同士での教員間の交流がやや少なく、もっと学力向上についての討議できる環境づくりが必要と思われる。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <p>昨年度に続き今年度も文部科学省委託「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を進めるため研究体制を整え、6月より公開授業を実施してきている。これから2回の公開授業や研究発表も保護者・地域にも公開する予定である。また、小学校高学年と中学校1年生の合同道徳授業を実施する。研究成果は令和2年1月24日予定の発表会でエビデンスとともに発表する。道徳は生徒アンケート等で相互理解・寛容や郷土愛等のいくつかの項目で推移を見る。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>地生連主催のコミュニティプラザ事業が毎年小中合同で行われているので、地域の方も交えて地域の子どもたちを見守る活動を今後も進めていく。オープンスクールについては小学6年生が中学校へ来て、授業や部活動を体験・見学でき、スムーズに中学校生活に接続できるためにも良い取り組みである。来年度入学予定保護者への授業参観や部活動参観を予定しているのは、学校を知ってもらうためにも一步前進した取り組みである。</p>

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none">オープンスクール（中学校での小学校6年生の授業体験や部活動体験）等の接続を図る取組みを行った。ただしいずれの日も雨天だったため部活動体験は制限して実施せざるを得なかつた。総合育成支援教育では小中が連携を行えたため、中学校生活が順調に行えている。学力面においては前述の通り学年が上がるにつれ、ポイントが少しづつ上がり、力がついてきている。更なる授業改善が必要である。保幼小中館連携会議（館は児童館）は新型コロナウイルスの影響のため2回しか実施できなかつた。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none">小中一貫の重要性が言われている中、今年度夏季休業中の合同研修会では「学力」をメインテーマとした。児童生徒の実態は、指導の実態と受け止め、引き続き学力向上に関する研修を続けていく必要性を感じた。小中相互の授業参観をもっと行っていく必要性を感じる。地域の子どもたちの様子を保・幼・小・中・地域で交流し、課題を探り共有を図るため、保幼小中館連携会議を行つた。地域の連合会会長も参加していただき、地域の子どもたちの情報交換

	<p>に役立った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を進めるため、6月と1月に道徳の公開授業を実施し、保護者のみならず地域のかたにも参観していただく機会を設け発信したが、来校者は低調であった。 ・毎月の3校校長会で、小中や地域の合同行事をはじめとする情報交換を継続して行えている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業（2年目）」を進め、道徳科の指導と評価については、ある一定ベースとなるものができた。次年度は「しなやか道徳」の研究指定校として、豊かな心を育てる研究を引き続き推進していきたい。 ・オープンスクールで中学校の授業体験の機会を持つとともに、今年度は6年生の保護者にも参観していただくようにした。また、部活動見学・体験も設定したが、いずれの日も雨天だったため充分に紹介できなかった。次年度は雨天バージョンを予め用意しておく必用がある。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究指定を引き受け、公開授業も保護者のみならず地域にも行うことは良い取り組みである。道徳性を一層養うチャンスであり、豊かな心をより伸ばしてもらいたい。 ・オープンスクールに、小学校6年生の保護者も参観できることは良いことで、これからも小中一貫へ向けた取り組みを一層推進していくことが望まれる。学校運営協議会も小中合同会議をもち、学校の活動を支援したい。
--	--